

**製品名:** EIF4E マウスモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMM80969

研究使用のみ

## 概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	25kDa

## 抗原情報

遺伝子名	EIF4E
別名	CBP; EIF4F; EIF4E1; EIF4EL1; MGC111573; EIF4E
遺伝子 ID	1977.0
SwissProt ID	P06730
免疫原	大腸菌で発現したヒト EIF4E の精製された組み換え断片。

## 背景

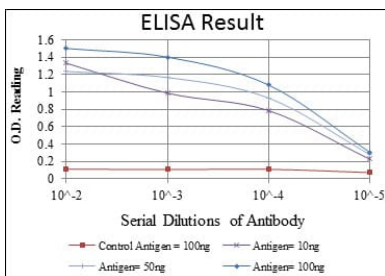
eIF4E は、接合子転写開始前の初期胚において、母性 mRNA の翻訳を調節するタンパク質です。eIF4E は翻訳全体の速度にも影響を与えます。eIF4E は真核生物 mRNA の 7 メチル GTP キャップ構造に結合します。eIF4E のセリン 209 のリン酸化は、このタンパク質

の7メチルGTPキャップおよび/またはRNAに対する親和性を調節します。リン酸化はまた、eIF4EとeIF4Gの相互作用を促進し、eIF4Fとして知られる複合体を形成します。eIF4Eのリン酸化は、多くの細胞種において翻訳速度の上昇と関連しています。現在、PKCやMAPキナーゼ活性化Mnkなど、いくつかのキナーゼがeIF4Eの潜在的な調節因子として研究されています。

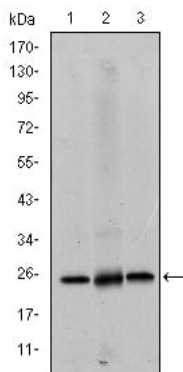
## 研究分野

PI3K-Aktシグナル伝達経路、mTORシグナル伝達経路

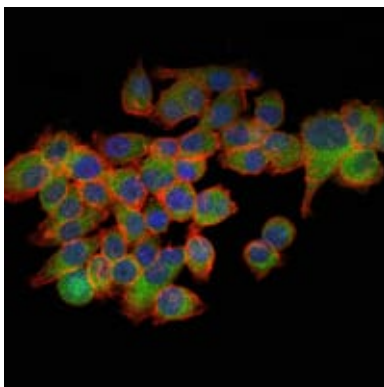
## 画像データ



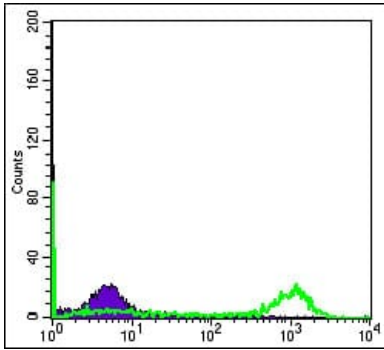
赤: コントロール抗原 (100 ng); 紫: 抗原 (10 ng); 緑: 抗原 (50 ng); 青: 抗原 (100 ng);



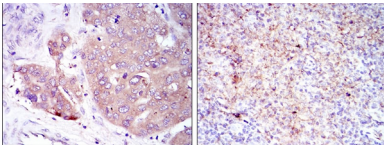
Hela (1)、HEK293 (2)、K562 (3) 細胞溶解物に対するEIF4E マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



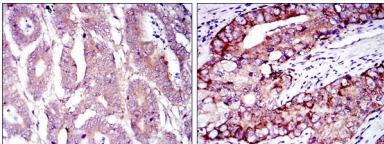
EIF4E マウス mAb (緑) を用いた GC-7901 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



EIF4E マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。



EIF4E マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋ヒト肝臓癌 (左) および顎下腺腫瘍 (右) の免疫組織化学分析。



EIF4E マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋ヒト胃がん (左) および前立腺がん (右) の免疫組織化学分析。